平成２２年度　第１回北海道地方独立行政法人評価委員会公立大学部会　会議結果

１　開催日時

平成 22 年 7 月 16 日（金）13:15～15:30

２　開催場所

北海道公立大学法人札幌医科大学　本部棟３階　１・２講義室

３　出席者

【委員】

舟橋　健市　部会長（公認会計士）
宇根　良衛　委　員（独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター　院長）
西　　安信　委　員（北海道尚志学園理事長兼北海道工業大学学長）
和田　健夫　委　員（国立大学法人小樽商科大学副学長）

【事務局（大学法人運営支援室）】

真鍋室長、古屋参事、漆館主幹、沼田主査、樋口主任

【北海道公立大学法人札幌医科大学】

島本理事長、野村事務局長、中野渡企画管理部長、成田総務課長、齊藤経営企画課長、大川学務課長、嶋田入試室長、貞村病院課長、原附属産学・地域連携センター参事　ほか

４　会議次第

１　開会
２　部会長挨拶
３　札幌医科大学理事長挨拶
４　議事
（１）　北海道公立大学法人札幌医科大学へのヒアリング
（２）　評価委員による審議
（３）　今後の評価委員会関連業務スケジュール
５　閉会

５　議事概要

（１）　北海道公立大学法人札幌医科大学へのヒアリング

【部会長】

・　それでは、審議に入らせていただきます。議事の一番目ということで、札幌医科大学さんへのヒアリングということでございます。
・　資料３の業務実績報告書につきましては、６月３０日付けで評価委員会に提出をいただいております。また、財務諸表につきましても、６月２９日付けで提出をいただいております。
・　これらについては、今日のヒアリングを含めまして、私たち委員の方で審議をいたしまして、８月の下旬に予定しております評価委員会で評価結果をまとめて、それを医大さんの方にご連絡し、知事に対しても報告するというような流れになっております。
・　それではまず、実績報告について質疑応答を行いたいと思います。

業務実績報告書に関するヒアリング

【部会長】

・　委員の皆様からは、予め質問をお預かりしていますので、私の方で指名させていただきながら、医大さんから回答をいただくという形で、進めて参りたいと思います。

・　最初は教育に関する質問ですが、年度計画番号６番について委員からお願いします。

○教育について

【委員】
・　昨年も同じようなことを申し上げたのですが、今回は、平成 21 年度の実績を評価することになりますが、平成 22 年度に実施する予定のものが評価の対象となっているものはいかがかという質問です。
・　年度計画番号６番では、保健医療学部のカリキュラムについて「英語Ⅲ・Ⅳ、ロシア語、スペイン語については平成２２年度から同時開講することとした」とあるが、平成２１年度業務実績報告書であるからにして、平成２２年度実施中の項目を A 評価とするのはいかがなものか。
・　同様に、医療人育成センターについても「平成２２年度から少人数制での授業を実施する」となっているが、平成２１年度 A 評価は妥当であるか、という質問です。

【法人事務局】
・　まず、保健医療学部の関係については、２１年度計画では「検討する」ことを実施内容としており、保健医療学部のカリキュラム改訂については、２１年度にカリキュラム委員会で所要の検討を行い、一定の結論を得たことから、Ａ評価としたものです。
・　次に、医療人育成センターの関係です。これについても同様に、２１年度計画では「検討する」ことを実施内容としており、医療人育成センターについては、より実践的・効果的な語学授業実現のため、少人数制による授業実施に係る検討を行いまして、22 年度から具体的に実施することを２１年度に決定したことから、Ａ評価としたものです。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　再質問がありましたら、よろしくお願いします。
　（再質問なし）
・　それでは、次に年度計画番号２３番ですが、これについて委員からお願いします。

【委員】
・　平成２１年度計画では「アルバータ大学における英語研修プログラムを推進する」とあったが、「新型インフルエンザの世界的な流行によるものでやむを得ない」としてプログラム中止となっていますが、実施していないものをＡ評価とするのは妥当であるかという質問です。

【法人事務局】
・　アルバータ大学における英語研修プログラムについては、記載してありますように、新型インフルエンザの流行のため、やむなく実施ができなかったということです。
・　これは平成１１年度から実施してきているものですが、途中同じようにＳＡＲＳの影響で中断したこともありました。そのときもそうだったのですが、学生の語学力向上と国際的感覚の習得を目的としていますので、まず、説明会を開いて学生の意欲を向上させるところから始めていて、結果として学生を行かせることはできませんでしたが、色々な学生への働きかけ、説明会、研修等を通じて、この所期の目的を可能な限り達するように努力ができたということで評価をしたところです。
・　その後、募集時期を過ぎてから、流行はある程度は収まったわけですが、その後、今年度をどのようにするのかについても、ある程度内部で検討が進んだということもあります。
・　今年度については、募集した結果、昨年度参加できなかった学生も応募をしていただきまして、引き続き今年度も実施することができるということで、昨年度に努力をした結果なのですが、学生に対して、研修に対する意欲の向上に寄与することができたと考えているところです。

【部会長】
・　医大さんの努力はよく分かるのですが、不可抗力とはいえ出来なかったということで、どうなのかなという議論があったものです。
・　分かりました。ありがとうございます。
・　次は、年度計画番号３２番ですが、委員からお願いします。

【委員】
・　保健医療総論の実施体制の見直しや地域医療合同セミナーの正規時間帯への変更の検討により、「平成２２年度から実施すること」としたものを、平成２１年度実績としてＡ評価するのは妥当であるかという質問です。

【法人事務局】
・　平成２１年度計画では、「講義・実習を充実する」ことを実施内容としております。
２１年度にカリキュラム委員会において検討を行い、地域医療合同セミナーを正規の時間帯に設定することを実施可能なものとして整理したことですとか、例年４月に実施している保健医療総論についても、２２年度の担当教員の配置等科目運営体制の見直しを行うなどの充実を図ったことからＡ評価としたものです。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　次は、年度計画番号３５番について、委員からお願いします。

【委員】
・　年度計画の３５番ですが、これは４６番とか５１番もそうですが、ある教育方法と教育効果を検証した上で改善を図るという年度計画になっています。
　これは考え方の違いかもしれませんが、教育とカリキュラムが期待されたとおりの教育効果あるいは学習効果をあげているのかということを検証するというと、通常は成績とか履修状況とか、ＧＰＡ(※)、学生へのアンケート、学生の進路、あるいは医学ではあまり関係がないかもしれませんが、雇用先への雇用した学生に関するアンケートなどを行って、分析・測定するということを、通常、私は考えてしまうのですが、年度計画の３５番では「進路調査を実施した」としか書かれていないので、細かな話ですが、検証したといえるのかどうか疑問に思いました。
・　「検証」ということがどういうふうに行われたのか、説明願います。
（※ ＧＰＡ…Grade Point Average：学生の成績評価システムの一つ）

【法人事務局】
・　平成２１年度は学位論文提出時、12 月から 2 月の間に、進路調査票を配布し卒業学生の進路調査を実施しました。その時点では修了後の進路が未定であったため、殆どの学生は年度末の３月に提出となったものです。
　このため、検証は２２年度に行うこととなったが、２１年度は調査を行い、その調査結果の内容を整理したことから、Ａ評価としたものです。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　続きまして、年度計画番号４６番について、委員からお願いします。

【委員】
・　これも同じような理由です。「臨床医学研究コースの検証」、これは教育効果の検証のことだと思いますが、２０年度に設置されたばかりなので、効果の検証を行えるはずはないと私は思うのですが、検証はどのように行い、どうしてＡ評価とされたのか、説明願います。

【法人事務局】
・　平成２１年度計画では、臨床医学研究コースの検証を実施内容としており、当該コースにおける２１年度の検証については、コース開設時に一定程度の時間をかけてデータを収集することが必要であったため、検証には至っていないが、全体の検証を行うためのデータを得るための取り組みとして、学生のプレゼン能力の向上等を図るため、研究経過報告書を提出した３年次の学生を対象とする研究経過発表会を新たに開催することを決定したため、Ａ評価としたものです。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　これは、年度計画の文言を少し変えた方が良かったのかもしれません。自己点検にも書いてありますが、２０年度に設置されたばかりで云々というのは初めから分かっていることですから、もう少し年度計画の表現が違う形であれば良かったのかなという感じはします。
・　それでは次に、年度計画番号５１番について、委員からお願いします。

【委員】
・　同じようなことを何度もしつこく聞いて申し訳ないのですが、ここでも「検証する」ということになっています。特に「学生の意見を聴取する」ということで、アンケートを行って、初期の学習効果や教育効果が身に付いているかどうかということを調べるというように私は理解をしたのですが、そうやって検証すると言うことでしょうか。自己点検評価にはアンケートについて書かれていなかったので、どうなっているのでしょうかという質問です。

【法人事務局】
・　患者ケアの実践結果について学生から聴取を行い検証を行ったところでして、患者ケアの実習期間が２週間程度と短かったことから、学生からの聴取結果では、個別ケアを主として行えなかったと、環境に慣れるまで非常に時間がかかったという結果が判明しました。
・　そのため、２学年の臨床実習については、今後、実習期間を３倍の６週間とし、患者１人について個別ケアを十分行えるように２２年度に向けて改善を図ったものです。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　次は、年度計画番号５６番について、委員からお願いします。

【委員】
・　自己点検評価の中で「ＩＴを導入して便利化することにより講義の欠席が多くなるという影響も考えられ、IT を活用するかどうかは教員の判断とすることとした」というのは、中期計画の「情報技術を利用した教育を推進する」との整合性はどのようになっているのでしょうか。また、Ａ評価とした理由についても合わせてお答え願います。
・　なお、ＩＴを導入して便利化できる講義というのは、全体の中でどのくらいあるのでしょうか

【法人事務局】
・　ＩＴを利用した教育の取り組みとして、「応用情報医科学」では e-learning、「地域医療合同セミナー」ではデジタルポートフォリオなどを活用し、ＩＴの活用を推進しています。
　２１年度については、情報系科目の教員からの実態調査や学生アンケートを実施していることから、Ａ評価としたものです。
　なお、教務委員会の検討内容については、e-learning は、ＩＴを導入して便利化することにより、学生が講義の欠席が多くなるという影響も考えられるため、これを活用するかどうかは教員の判断とすることとしたものです。
　なお、e-learning における全体の割合についてですが、パーセンテージについては手元に資料がありませんが、まだ少ないという状況です。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　それでは続きまして、年度計画番号７９番について、委員からお願いします。

【委員】
・　評価をする場合には、年度計画がどういった内容なのかを見た上で、自己評価がどうなっているかということを見ていくわけですが、７９番ですと、「授業評価の実施結果を授業に反映させる方法等」について、「検討する」となっています。自己評価では、従来行ってきた授業評価を行って、フィードバックをするということしか書かれていません。
・　私がこの年度計画を見て思ったのは、そういう従来やっているものからさらに踏み込んで授業に反映させる方法について、もっといい方法がないか検討するというふうに受け止めたのですが、これだと従来の授業評価を行ってフィードバックするということを続けているだけですので、「検討した」と言えるのかどうかが気になりましたので、質問させていただきます。

【法人事務局】
・　授業評価結果の授業への反映については、企画評価小委員会において評価の実施やその集計方法、評価結果報告書の構成、改善すべき点などについて従来から検討しており、この評価小委員会の検討に基づいて科目ごとに学生による授業評価を実施して、その結果を集計したものを冊子にして各教員に配付し、授業の改善に役立てるよう周知しています。
・　当然、小委員会における検討内容は、冊子にまとめている年次報告に反映しているところです。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　続きまして、年度計画番号８３番について、委員からお願いします。

【委員】
・　平成２２年度から２４年度まで３ヵ年かけての新カリキュラム移行に並行して、「より一層のウェブ化について検討していく」とあるが、これをまだ実施していない平成２１年度の実績としてＡ評価としたのはいかがかという質問です。

【法人事務局】
・　平成２１年度においては、カリキュラムとその流れをホームページに掲載しました。それとともに、新カリキュラムへの移行に併せて、より一層のウェブ化をすることを決定したことからＡ評価としたものです。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　それでは、教育に関する質問についてはとりあえずはここまでということで、続きまして、研究に関する質問に入ってまいります。年度計画番号１１５番について、委員からお願いします。

○研究について

【委員】
・　１１５番は、学内共同利用施設の改革のことが書いてありますが、この点については、年度計画ではないのですが、中期計画を見ると「平成２１年度までに両学部が相互に利用しやすい制度・体制を構築する」とあり、２１年度には体制が出来上がっているという内容になっていますので、２１年度にはそれが完成していなければいけないと、ここだけ見ると思うのですが、自己点検報告書によりますと、基本的な方向性が決定されたということをもって、「構築する」ということで評価されているように見えますが、そういうことでよろしいでしょうか。

【法人事務局】
・　医学部附属研究所の再編検討について答申が出されて、基本的な方向が出されたということです。あくまで２１年度計画については、「制度・体制を検討し、構築を図る」となっていることから、Ａ評価としたものです。
　なお、２２年度に「研究所・機器センター再編検討ワーキング」というものを新たに立ち上げまして、具体的な検討を進めているところです。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　次は、附属病院の項目に入ります。年度計画番号２１５番について、委員からお願いします。

○附属病院について

【委員】
・　平均在院日数を１８日に短縮しようということですが、２１年度の実績を見ますと、２０年度より在院日数が若干延びています。なぜこれがＡ評価になるのかという質問です。

【法人事務局】
・　平均在院日数の件ですが、１８日を目標にやってきましたが、特定機能病院ですので、入院基本料の７対１看護体制の施設基準では、一般病棟の平均在院日数は２８日以内となっています。一方、一般病院は１９日以内となっています。
・　全国的に平均在院日数は１７日から１９日となっていまして、目標は１８日以内としているのですが、それを勘案して、平均在院日数と診療収入のバランスを見ますと、在院日数の短縮イコール診療収入増とは必ずしもなっておりません。
・　ということで、当院ではＤＰＣ（診断群分類による包括評価）で診療報酬請求を行っておりますので、ＤＰＣの意図する平均在院日数は大体１７日から１９日となっていることから、１８日を目標としているところであります。
・　そういうことを勘案しますと、１８日として目標を設定していますが、当初法人化したときは、１８．８８日という数字で、他の大学から比べて後ろの方でしたが、今は１８日台ということで、診療報酬的にも影響はないということで、１８日台であれば水準を確保して、経営にも影響もありませんので、Ａ評価としたところです。

【部会長】
・　小数点以下はあまり細かいことは言わないということですね。
・　続きまして、その他の業務運営に関する質問としまして、年度計画番号２２７番について、委員からお願いします。

○その他の業務運営について

【委員】
・　これは年度計画の「役員のマネジメントを補佐する体制を検討する」となっていますが、自己評価では、「年度開催計画に基づき、役員懇談会を開催した」としか書かれていませんでしたので、質問させていただきました。
・　「役員懇談会」というのが、「役員のマネジメントを補佐する体制」であるという事前のご説明がありまして、その点は理解したのですが、計画では「補佐する体制を検討する」となっていますから、懇談会を開催したという記載だけでは、それでは検討はなされなかったのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

【法人事務局】
・　役員懇談会につきましては、役員のマネジメントを補佐するということで、役員の他に事務局

長、企画管理部長、病院事務部長等がメンバーとなり、法人内部の検討会議として役員のマネジメントを補佐することを目的に、定例的に開催しています。
・　計画では「体制を検討する」ということですので、これで良しとしているわけではありません。自己点検評価には役員懇談会の開催についてのみを記載しましたが、実はその他に、規定にはないのですが、理事長のマネジメントを補佐するための会議としまして、「理事長室朝会」というものを、副理事長と事務局幹部をメンバーとして、月２回ほど定例的に開催したり、あるいは教育・研究部門におけるマネジメントということで、「理事長補佐」という者を選任しまして、理事長補佐と事務局の部長がメンバーとなります「理事長室会議」というものを、これも正式な規定にはないのですが、開催しています。
・　このような色々な試みをしながらやっているということで、２１年度計画に記載している「体制を検討する」については、このような形で取り組んでいるところです。

【部会長】
・　そうしますと、制度的に何か出来たとか作るとか、そういうわけではないということですか。

【法人事務局】
・　法人化して３年が経ちますので、大分やり方が見えてきたのですが、今年度は学長が交代し、昨年までのやり方で良いのかということもありまして、現在も色々検討中なのですが、昨年度についても、制度として定めている役員会の他に、理事・役員をマネジメントする体制ということで色々な試みを行っているところです。

【委員】
・　今お話を伺った限りでは、色々な組織が既に出来上がっているということだと思いました。
・　そうすると、「役員のマネジメントを補佐する体制」というのは既に出来上がっていて、この計画については終了しているということなのではないでしょうか。
・　あとはその体制を運用するだけですから、こういう計画は「検討する検討する」と伸ばさないで、「終了した」ということで終わらせてしまった方がよろしいのではないかと思います。

【法人事務局】
・　ただいまご指摘をいただきましたとおり、この計画にありますように、いつまでも「体制を検討する」ということで良いのかというのは確かにそのとおりだと思いますので、引き続きやることはやっていきますが、制度として出来たものについては、そのような形にしていきたいと思います。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　確かにそうですね。年度計画の文言が良くなかったのかなという気もしますし、自己点検が少しシンプルであったようにも思います。
・　これで業務運営については終わりましたが、各委員から何か質問はありませんか。
　（質問なし）
・　続きまして、財務諸表関連の質問ということで、あらかじめ質問を出させていただいています。では、委員から質問をお願いします。

財務諸表等に関するヒアリング

【委員】
・　決算のところで、剰余金が発生していますが、その使途についてご説明いただきたいと思います。
・　本来、剰余金が出れば、運営費交付金の減という方向に持っていくのが通常ではないのかと思いますが、いかがでしょうか。

【法人事務局】
・　剰余金の使途については、目的積立金と積立金ということになりますが、積立金については、法律（地方独立行政法人法）において、決算において赤字となった場合の損失補てんに充てるものと決まっていますので、それ以外の使い道はありません。
・　目的積立金については、これは知事の承認を得るのですが、中期計画で使途を定めることになっていまして、「教育・研究・診療の質の向上及び組織運営の改善に充てる」となっています。これについて具体的に何に使うのかについては、これから法人の中で検討していくということになっています。

【委員】
・　わかりました。
・　次の質問ですが、事業報告書の２１年度収支計画で、運営費交付金収益の決算額が予算額に比べて約２億円のマイナスとなっていますが、その理由を教えてください。

【法人事務局】
・　これは、２１年度は２億円ということですが、道から措置された運営費交付金で、当初の予算で見込んでいなかった、例えば給与改定により減額になったものとか、退職者が予定より減っただとか、そういったもので執行残が生じまして、運営費交付金の収益化の額が減ったということです。
・　こういった執行残となったものについては、翌年度以降の運営費交付金で精算されますので、会計上、運営費交付金債務という形で繰り越されることとなっています。

【部会長】
・　それでは、財務諸表に関して、私から質問いたします。
・　まず、財務諸表の１ページ目、貸借対照表の固定資産に特許権仮勘定４千１１８万７千円とありますが、これは特許申請済でまだ特許の認可が下りていないものという考えでよろしいでしょうか。

【法人事務局】
・　そのとおりです。

【部会長】
・　特許は申請してから大体どのくらいの期間で認可が下りるものなのでしょうか。平均というのは難しいのかもしれませんが、大まかにいうとどのくらいでしょうか。

【法人事務局】
・　申請までにも色々な時間がかかりますが、申請してから１年から１年以上という感じです。

【部会長】
・　分かりました。ありがとうございます。
・　次に、貸借対照表の固定負債の長期寄附金債務２億１千１３６万円とありますが、この内訳を教えてください。

【法人事務局】
・　長期寄附金債務についてですが、これは平成２０年６月２６日付けで財団法人札幌医科大学学術振興会が解散したことに伴い、寄附金として法人が受け取った有価証券等がこれに該当します。
・　これは、教育研究施設の整備等を図るための基金に積みまして、長期寄附金債務としています。この中身については、国債と道債と、その利息という形になっています。

【部会長】

・　これは、いつかは収入に振り替わるということなのでしょうけど、研究設備等を購入したときに、その見合い分を収入に振り替えるという形なのですか。それとも、定期的に何年間かで均等に振り替えていくとかそういった形でしょうか。

【法人事務局】
・　国債と道債は５年の満期ということで保有していますので、満期まではこのまま持ち続けるという考えでいます。その後は今後検討していくということになっています。

【部会長】
・　わかりました。ありがとうございます。
・　それから、３つ目ですが、事業報告書の１０ページ目の「第１０　その他」の項目ですが、そこに、施設設備事業費の実績が計画を約３億円上回った数字になっています。予算は基本的にはそのまま推移するもので、こういうことはあまりないのかと思うのですが、そのあたりの事情についてお聞かせください。

【法人事務局】
・　２１年度中に、解剖実習室の改修を行いました。中身としては、解剖のときにホルマリンを使用しますが、ホルムアルデヒドに関する法律が改正になりまして、これに伴う施設整備費が措置されたわけですが、これが３億１千７百万円、道から追加の補助金措置をしていただきました。
・　そして、入札でさらに１千８百万円ほど事業費が減少しまして、最終的に２億９千９百万円の差がここに出ているということになっています。

【部会長】
・　そうしますと、最初の予算編成の時には、想定していなかったということですね。
・　わかりました。ありがとうございます。
・　次に同じく事業報告書の１１ページ「別紙　平成２１年度決算」とありますが、ここに雑収入１２億２千５百万円とあります。この中身についてご説明願います。

【法人事務局】
・　この中身についてはいくつかありまして、まず、文部科学省等からの補助金収入が約９億１千万円、あと、科研費の間接経費収入が約１億円、受託研究等の間接経費収入が約７千万円、本学の施設の財産貸付料収入ということで３千７百万円とありました。あとはその他の細かいものが９千５百万円というような内訳になっています。

【部会長】
・　ちなみに、この１２億という数字は実際に資金が入ってきたというイメージでしょうか。

【法人事務局】
・　そうではありません。

【部会長】
・　そうすると、損益計算書の雑益とは金額が違ってくるということですね。

【法人事務局】
・　そのとおりです。

【部会長】
・　そうですよね。損益計算書の雑益と決算の雑収入の金額が全然違うもので、それがそもそもの質問の発端だったのですが、おそらく資金ベースと損益計算書の違いというなのかなという想像はしていたのですが、そういうことなのですね。わかりました。

・　次に、財務諸表の最後の質問になりますが、附属明細書の未払金の明細に、職員退職金未払金１０億円弱あります。これについて、６月末現在の未払額があれば教えてください。

【法人事務局】
・　これは毎年度３月３１日に退職する職員に対する退職金になっていまして、これは３０日以内に支払うことになっていますので、６月３０日時点では全て支払済です。

【部会長】
・　わかりました。要するに、毎年このくらいの退職金が出るということなのですね。
・　ありがとうございました。
・　これで、事前の質問については全て終わりました。
・　これ以外に、委員から先ほどの回答に対する再質問あるいは補足、または事前に連絡はしていないけれども聞きたいことなどありましたら、今日この場で回答が出るかどうかは別にして、もしありましたらお願いします。

追加質問等に係るヒアリング

【委員】
・　事前には出していないのですが、資料３の５１ページの通し番号１６３番、地域医療機関への医師派遣ということで、法人の自己評価はＡ、派遣要請の応諾率が９４．１％、公的医療機関に対する派遣件数の占める割合が５８．６％となっています。
・　応諾率が９４．１％というのは、これは民間病院も含めてのものだと思うのですが、その中で、中期計画は平成２４年には公的医療機関に対する派遣件数の割合が６０％となっています。
　要するに、応諾率が９４．１％と高い割には、公的医療機関に対する派遣件数の割合が６０％に到達していないというところで、多分、前年度比で率が上がっているからＡ評価としているとは思うのですが、そういうことでよろしいでしょうか。

【法人事務局】
・　医師派遣の関係ですが、応諾率が９４．１％で、公的医療機関に対する派遣件数の割合が５８．６％ということで、６０％に達していないのはどういうことかというご質問でしょうか。

【委員】
・　そうです。

【法人事務局】
・　「公的医療機関に対する派遣件数の割合」は、全道で３医育大学がありまして、本学では、教員派遣と通常の医師派遣と、短期と長期というものがありまして、派遣要請件数は全部合わせると延べ２２７９件で、このうち派遣できたのが２１４４件ということで、全体からすると医大は６０％を占めていないという意味なので、もう少し地域医療の色々な組織を作って欲しいなど、各首長さんの方から要望もありますが、こちらもなかなかそこまで医師数を確保できないものですから、こういう数字になっているものです。

【委員】
・　おっしゃることは分かりますし、聞きたいことはたくさんあるのですが、とにかく、北海道の地域の医療の状況を見ると、決して札幌医大の活動がＡ評価というところまでは行っていないのではないかなという印象があるものですから、こういった質問をさせていただきました。

【部会長】
・　他に、委員から追加質問なりなにかありますか。

【委員】
- 急な質問なので、お答えできる範囲で結構なのですが、年度計画番号１番の札幌医科大学の特に学士課程のカリキュラムの改革のことについてです。
- 中期計画や年度計画を拝見しますと、今現在二つの学部によって、カリキュラムの改革を進めておられるということになっています。
- カリキュラムを改革するのは「カリキュラム委員会」というところがやっているのだと思いますが、自己点検評価で記載のある「医療人育成センター」というのはどういう組織で、カリキュラムの改革に対してはどのような関わり方をしているのかということをお聞かせ願います。
- ２点目は、現在、カリキュラムの改革を全体的に見て、大体完成に近づいているのか、それともまだ課題が残っているのか、大雑把な質問で恐縮ですが、お答えできる範囲でかまいませんので、お聞かせ願います。

【法人事務局】
- まず、１点目の医療人育成センターのカリキュラム改定等に関する役割についてですが、元々、医学部と保健医療学部にそれぞれ一般教養部門がありまして、それを平成２０年１０月に両学部の一般教養部門を集約し、統合する目的で、医療人育成センターを新たに設置されたところです。
- したがって、医療人育成センターについては、一般教養部門の教員約３０名が在籍していますが、一般教養科目の両学部の共通カリキュラムということで、従来からある両学部のそれぞれのカリキュラム委員会に医療人育成センターの教員がそれぞれ参画し、カリキュラムの改定について審議をしているということです。
- それから２点目のカリキュラムに関する課題というご質問ですが、医療人育成センターにつきましては、立ち上げたばかりの組織ですので、元々医学部・保健医療学部の一般教養について、それぞれの科目について内容が異なっているということもありまして、そういう意味では実際には難しいという面はありますが、今、学長直下のワーキンググループを作りまして、医療人育成センターの一般教養科目のあり方について、検討をしているところです。
- また、医学部のカリキュラムについては、文部科学省の医療系のモデルコアカリキュラムに準拠して、本学の場合は７割程度はモデルコアカリキュラムに準拠して、３割程度は独自のカリキュラムという構成になっていますが、昨年来、新しいカリキュラムに移行している時期で、学年によってそれぞれ使うカリキュラムが異なってくるという、ちょうど過渡期の状況でして、これは課題として認識しています。

【部会長】
- それでは、私から質問をさせていただきます。
- 年度計画番号１３番です。計画では、「高校等の要望に応え、出前講義を積極的に実施するとともに、出前講義の項目は実績等をホームページ等でＰＲする」となっています。
- これは１９年度も２０年度も似たような内容で、１９年度も２０年度もそれぞれ、ホームページでＰＲしましたという自己点検になっていました。
- ところで、２１年度はそうではなくて、教育庁のホームページで掲載されているということなのですが、２１年度は札幌医科大学のホームページには掲載しなかったと受け止めてよろしいですか。

【法人事務局】
- おっしゃるとおり、２１年度はホームページに載せておりませんでした。過去も出前講義については、教育庁のものとは別に、個別に実施したものだけを掲載していました。

【部会長】
- ということは、１９年度と２０年度の自己点検評価で、ホームページ等でＰＲしたというのは、教育庁のものは医大のホームページには掲載していなかったということなのですか。

【法人事務局】
・　教育庁の事業は、平成２０年度からの新規事業なのです。それで、１９年度と２０年度は教育庁の事業がないわけですから、本学に対する要請もなかったということだと思います。
・　道内の医師不足に対して、教育庁が医学部進学希望者を対象に事業を立ち上げていて、これに基づく本学への要請ですので、事業自体は２０年度の途中から行っているので、本学への出前講義の要請については２１年度からということで、教育庁の事業に対しては２０年度の実績はない状況です。

【法人事務局】
・　教育庁の事業としては、２０年度から２１年度も継続して事業を行っています。
・　１９年度はありませんでしたが、２０年度から今年度で３年目を迎えています。

【事務局（大学法人運営支援室）】
・　今の質問は、１９年度と２０年度の自己点検評価で「ホームページでＰＲした」と書かれているのだけれど、それはどういうことだったのかという趣旨です。

【法人事務局】
・　本学独自で行っている出前講座があるのです。教育庁で行っている事業以外に、本学独自のものについてＰＲしているということです。

【部会長】
・　といいますと、出前講座には２つあるということですか。医大独自のものと教育庁が実施しているものと。

【法人事務局】
・　そうです。本学独自で行っている出前講座がありまして、これについては従前からホームページに載せているのですが、教育庁の事業については特に載せていなかったということです。

【委員】
・　それなら、やはり自己点検評価には自前で実施した分については記載していただかないと。教育庁のことしか書かれていませんよね。

【部会長】
・　わかりました。
・　それと、次は年度計画番号２６番ですが、「医療人育成センターを中心にカリキュラムの企画、点検、改善の検討を行う」という計画に対して、「医学部・保健医療学部のカリキュラム委員会の委員に医療人育成センターの教員が参画し」となっていまして、この自己点検評価の内容で「医療人育成センターを中心に」という形になっているのかどうか、ちょっと理解できなかったのですが。

【法人事務局】
・　運営組織自体に変更はありません。両学部のカリキュラム委員会については従来からある組織です。先ほども触れましたが、医学部・保健医療学部のそれぞれのカリキュラムの改定・編成を審議する委員会です。あくまでも、共通カリキュラム委員会は医療人育成センターの教員で組織されたもので、医学部と保健医療学部の一般教養科目の改定・編成を審議することを目的としている委員会です。

【部会長】
・　そうすると、年度計画で「医療人育成センターを中心に～」とあるのは、どういう意味なのでしょうか。どうもイメージできないのですが。

【法人事務局】
・　あくまで、一般教養科目に限っては、医療人育成センターが中心となって改定を進めるということで、そのために医療人育成センターの教員を両学部の委員会に参画させているということです。

【部会長】
・　そうしますと、「医療人育成センターを中心に」というのは、今おっしゃったような意味だと。

【法人事務局】
・　はい、そのとおり理解していただければと。

【部会長】
・　分かりました。
・　私からの質問は以上です。
・　特に他の委員から質問がなければ、評価委員会のみでの審議に移りたいと思います。
（質問なし）
・　それでは、札幌医科大学の皆様、今日はありがとうございました。

（２）評価委員による審議

【部会長】
・　それでは、審議に入らせていただきます。
・　医大さんの方から、回答をいただいた中には、これでよいのかというものが結構ありますよね。
・　分かりやすいものとしては、年度計画番号２３番のアルバータ大学の語学研修ですかね。新型インフルエンザの流行で実施できなかったけれども努力をしたからＡ評価だと。

【委員】
・　これをＡ評価にするのは絶対に無理ですよ。

【部会長】
・　気持ちも努力も分かりますけどね。不可抗力とはいえ、実施できなかったからこれはＢ評価ですよね。
・　あとは、他に医大の回答についてどうですか。

【委員】
・　一つ一つ見て行くと、これではＡ評価は難しいのではないかというものが結構ありますね。

【部会長】
・　今回、私が質問出すのが遅れてしまったものが結構あるのですが、年度計画の後半の方でも、「これはちょっと」というものがありました。

【委員】
・　Ａ評価以上が９８．８％というのは行き過ぎではないですか。
・　実績報告なのですから、検討してまだ実施していないものをＡ評価にするのはおかしいと思います。

【部会長】
・　ただ、検討結果が出ていればＡ評価で良いのではないでしょうか。まだ実施はしていないけれども、検討した結果、実施する方針が決定しましたと、これくらいまで到達すればＡ評価でよいでしょうし、それで踏み込んで実施したらＳ評価なのかもしれませんが。

・　いずれにしましても、「検討する」という計画で「引き続き検討する」という自己点検評価のものがいくつもありましたが、これはやっぱりＢ評価でしょうね。

【事務局】
・　ただ、中期計画は６年間の計画ですから、最終年に達成できればそれで良いので、その過程がありますよね。そういう意味で、年度計画の判断というのは難しい面があると思います。
・　早く達成できるものもあれば、６年かかるものもありますし。
・　達成したものについては項目を落としているものもあるのですが。
・　途中が難しいかと思います。一気に達成できてしまう場合もあるし、そうではない場合もある。

【委員】
・　これは仕方がないですね。引き続き検討するというのはやむを得ない場合もありますよね。
・　中期計画期間の評価はどのようにするのですか。

【事務局】
・　６年目が終わった後ですから、７年目です。
・　その前に、次期中期目標に策定に着手しなければなりません。

【和田委員】
・　そうすると、中期計画の評価をしていないうちに次の中期目標が６年目に出てくるということになりますが、それで良いのですかね。

【事務局】
・　これから検討していかなければなりません。
・　大学だから当然やらなければならない仕事というのもがあります。今の中期計画にはそういったルーチン的ものがかなりありますので、こういったものは今後削除していくことになります。

【事務局】
・　今の評価方針に基づきますと、最終年の前年に、中期目標の達成度を点検することになっていまして、これを次期中期目標の策定に当たっての参考にするということになっています。

【委員】
・　そうすると、実質的に４年間ということですよね。今３年終わりましたから、あと１年しか残っていないわけですよね。
・　私が一番心配するのは、年度計画評価ではずっとＡ評価とされているのに、中期計画全体で見たときに、Ａ評価と言えるかどうかということがあり得ますよね。
・　年度計画評価で全てＡ評価であったのに中期計画評価ではＢとなってしまうことになりかねなくて、これは心配です。
・　各年度の計画に囚われているとそういうことも考えられます。
・　ですので、最終年度までではなくて、あと２年で中期計画を終わらせるような方向で、急いで達成に向けて取り組んでもらうようにした方が良いと思います。
・　今のところ、「引き続き検討する」というものが多くありますが、５年目になってまだ引き続き検討している状況であれば、それはＢ評価やＣ評価としなければならなくなります。

【委員】
・　中期計画では数値目標を掲げているものがいくつかありますが、その項目に対する年度計画では数値目標を設定していないものがあります。２１年度は何％で２２年度はこれくらいに持って行きますと、それで中期計画の数値目標に近づけていきますというようにした方が良いのではないかというものがいくつかありますね。

・　今回の２１年度評価でも数値目標が設定されていないものがあって、こういうものは評価しようがないと思います。自己評価ではＡ評価としているけども、中期計画評価の時に達成できていなかったら結局Ｂ評価ということになりかねないですよね。

【委員】
・　出来る限りあと２年間で達成していただいて、中期計画は半分以上終了していただかないと。
・　先ほど、カリキュラムの進捗状況について確認したのも、結局全体像が見えないものですからお聞きしたのですが、お話を聞いた限りでは、医学部のカリキュラムは文科省のモデルがあって、それで出来ていて、あとは学年進行で行っていくということ。
　あれは私の目から見れば終わっていると思うのです。あとは実行して行くだけですから。それなら終了したと書いていいと思います。
・　役員のマネジメント補佐体制についても同様です。お聞きしたら色々やっているということが出てきて、もう体制が出来上がっていますので、あとはその運用ですよね。体制が出来ていればこれも終了としていいと思います。
・　このように、点検して、出来る限り終了して行く方向で考えてもらった方が良いと思います。
・　あと、２２５番のところで、「役員会、経営審議会、教育研究評議会等を効率的・機動的に運営し、迅速で的確な意思決定を行う」とありますが、これは法律で定められた組織なので、これを効果的に運営するのは当たり前のことなので、こういうものをやりましたからといってＡ評価というのはいかがなものかなと思います。それだったら例えば教授会を効果的に運営していくことを計画として、きちんとやりましたからＡ評価というのが許されることになりますよね。
・　こういうことはやって当たり前のことですから、計画に立てるのはいかがなものかと思います。これはもう計画として書かなくていいのではと思います。

【事務局】
・　来年度は落としてくるのではないかと思うのですが、ちょっと確認します。

【部会長】
・　２２年度の計画はもう決まってしまっていますよね。

【委員】
・　評価に困りますよね。こういうものをＡ評価だと言われても。

【委員】
・　もっと数値目標を示して欲しいですね。
・　私も病院では数値目標を掲げていますけども、例えば後発医薬品の利用拡大を図るという計画がありますが、これをどのくらい２１年度に達成しようとしているのかがわかりません。平均在院日数も同様です。
・　それから、患者満足度調査というのも、これはやるのは当たり前で、やった結果どうだったかという、そこまで踏み込んだ自己点検評価をしていただかないといけないと思います。ただやったからＡ評価だということにはならないわけですから。

【委員】
・　あと、「検証する」という言葉を安易に使いすぎていると思うのですが、ＰＤＣＡサイクルのチェックですが、そういった検証というのは５年とか７年に１回行うもので、毎年毎年行うというのはどうなのかということ。
・　それと、年度計画番号１１５番の学内共同利用施設のところですが、年度計画では２１年度に「構築を図る」と明言しているわけで、ここでＡ評価を出してしまっては、この計画については達成されたものとして終了となり、次年度には計画に出さないようにしないと、まだ終わっていないじゃないかということになります。
・　基本的な方針を決めたので９０％以上達成で、Ａ評価だと。それでよいのですが、あとはこの

方針に従って実施するだけですから、２１年度に構築するという計画は達成したと、中期計画そのものを達成したとお考えだということですね。

【部会長】
・　このあと、項目別に、医大さんはＡ評価といっているけれどもこれはＢ評価であるとか、今確認しますか。

【事務局】
・　それについては、本日配布した資料の最後に事務連絡をつけていまして、本日ヒアリングが終わりましたので、医大の自己評価について変更するべきだという項目について、この様式に記載して再度提出していただきたいと思います。それで、事務局でそれを集約した形で次回の部会までに取りまとめましてお知らせしたいと思います。それを元に再度ご審議いただきたいと思います。
・　大変お時間がない中申し訳ないのですが、７月２２日までにご提出いただきたいと思います。様式については、本日戻りましたらメールで送付させていただきます。

【委員】
・　ここで一つ一つ意見を出したら時間がかかりますからね。

【部会長】
・　そうですね。キリがないですものね。

【事務局】
・　はい、ここではおそらくまとまらないと思いますので。

【委員】
・　例えば私がさっき言ったような項目についてはＡ評価じゃなくてＢ評価じゃないかということを書くわけですね。

【部会長】
・　そうですね。それでいいと思います。

【委員】
・　自分に自分で点数をつけるわけですから、優等生になりますよね。

【委員】
・　それでもＳ評価は随分減りましたよね。

【部会長】
・　一番はじめはＳ評価が多かったですからね。

【委員】
・　中期計画自体がすごく抽象的な内容ですので、達成しているかどうかの判断は最後に難しくなりそうですね。
・　教育の部分ですとか。「本学の理念や教育目標に沿ったカリキュラムの編成に努める」という中期計画に対して、達成しているかどうか判断するのは難しいです。
・　普通は年度計画がずっとＡ評価であれば中期計画もＡ評価になるのでしょうけど。私はそれでいいと思うのですが。
・　あまり検討を先延ばし先延ばしにされて、わけが分からなくなるのも困りますよね。我々もどう判断していいのか困りますし。

【部会長】
・　この他に、この場で確認しておくことは何かありますか。
・　「検討する」については、検討が終わっていればＡ評価という部分はこれで一つ認識ができたかと思いますけど。
・　平均在院日数で１８．６１日というのは、数字的には少し悪化しているが、アバウトでＡ評価だというものもありましたが、これはどうしましょうか。気持ちは分からないでもないし、微妙なことで動いたりもするのでしょうから。

【事務局】
・　患者がいてのものですから、意図的に在院日数を減らすということもなかなか難しいのではないかと。

【部会長】
・　確かに無理やり減らしたから良いというものでもないでしょうからね。
・　この場で皆さんとすり合わせをするような事項については、このようなところでよろしいでしょうかね。最終的には委員の皆さんの考え方を出していただいて、その後どうするかというところですね。
・　では、本日の審議はここまでということで、次は今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

（３）　今後の評価委員会関連業務スケジュール

【事務局】
・　今後のスケジュールについてご説明させていただきます。
・　次回第２回の部会については、８月１０日の火曜日の午後を予定しています。年度評価の事務局素案を先ほどお願いした意見を基にしてまとめまして、それを提示して委員の皆様にご議論いただきたいと思っております。
・　第３回の部会ですが、８月３０日の月曜日の午後を予定しています。第３回の部会では、評価結果案を委員の皆様に協議していただきまして、平成２１年度の業務実績に関する評価結果と、平成２１年度の財務諸表及び利益処分の承認に係る意見をとりまとめたいと考えております。
・　また、この第３回の公立大学部会の終了後に引き続いて、第１回北海道地方独立行政法人評価委員会を、試験研究部会の委員も参加して、開催し、評価結果の報告をすることとしています。
・　なお、各部会の開催の１週間前に皆様のところに事前に説明に伺わさせていただきます。後日、日程を調整させていただきますので、よろしくお願いします。
・　公立大学部会は３回で審議を終わらせていただきまして、その後事務局におきまして、知事に対して「評価結果」及び「財務諸表及び利益処分の承認」に係る意見について報告を行いまして、その後９月に開催されます第３回北海道議会定例会において、知事から議会に報告を行います。
・　昨年と同様に、余裕のない日程での作業になりますけども、委員の皆様にはどうぞよろしくお願いしたいと思います。

【部会長】
・　ありがとうございました。
・　次回は８月１０日の午後からと、８月３０日の午後は３回目の部会と委員会ですね。
・　これをもちまして、第１回の公立大学部会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。